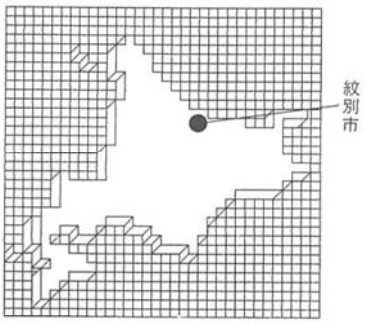
あのマチ
このムラ・地域おこし活躍中 No.12

紋別市の事例

活力とゆとりある地域農業の確立を目指す



紋別市は、オホーツク海の流氷をガリガリ砕いて進む流氷砕氷船「ガリンコ号」で全国的にも知られている。紋別という名称は、アイヌ語の「モウペット」（静かな川の意）に起因しており、明治二年に「紋別」となった。

◆地域の概要

北海道の北東部・網走管内の北部でオホーツク海沿岸のほぼ中央に位置し、遠軽町他五町に隣接しており、総面積は八三〇・二平方キロと広く、全国の都市の中でいわき市・静岡市・札幌市・芦別市について五番目・北海道では三番目に広い面積を有している。

地形は、オホーツク海沿岸から内陸部に向かって徐々に高くなり、背面は数条の山脈に囲まれ、南部の北見富士（標高一、三六〇m）が扇型に広がり、東部地域の藻別川、西部地域の渚滑川流域に農耕地が開け、山林もこれら河川を母体に形成されている。

気象は、海岸から内陸まで四〇キロもあるため地区ごとに一様ではないが、冬は寒冷・夏は冷涼で降水量は年間八〇〇㎜前後と少なく、積雪期間は十二月から四月上旬で、オホーツク海特有の流氷は概ね四月上旬に海明けを迎える。

人口は、昭和四十年をピークに、高度成長期に入って鴻之舞金山の閉山や農業の過疎化等により、十年間で一万人余りの人口減があったが、近年においては三万人程度で比較的安定している。農家人口も一、一三九人（'95農業センサス）で減少傾向にある。

交通は、幹線道路の国道二三八号線がオホーツク海沿岸を南北に、国道二三七号線が内陸方面に縦貫し地域産業の要になっている。空の便としては、札幌（千歳・丘珠）～紋別間をYS－11型機が就航しており、平成十一年度には新空港が開港されジェット化が予定されており、現在工事が盛んに行われている。

▶サイレージ収穫作業

◆紋別市農業の変遷

紋別市史によると明治十四年、網走郡役所の半沢真吉らが最初の移民として入地したと記されている。その後、徳島・富山・高知県人らの団体入植があり、開拓の鍬がおろされていた。当初は漁業開

発に依存していた為、農業開発は入地してから数年おくれを見せていた。明治末期には渚滑地区に続いて沼の上、藻別地区にも農を専業とする移住民の入地が相次ぎ、ようやく農村としての形態を整えつつあったが、重粘土地帯の悪条件から生産性が低く、農業収入も渚滑地区に比べ低い状況にあった。

表1　紋別市農家戸数の推移　（各年2月1日現在）

区分／年次	総農家数	専　業	第1種兼業	第2種兼業
昭和55年	455	287	123	45
60	394	247	100	47
61	395	261	93	41
62	390	264	87	39
63	377	259	63	35
平成元年	359	258	74	27
2	333	238	79	16
3	332	243	55	34
4	321	238	57	26
5	306	227	59	20
6	290	235	36	19
7	265	179	70	16

平成8年版紋別市農政課　紋別の農業より　（北海道農業基本調査）

幾多の冷水害に見舞われながら紋別の農業は推移し、昭和三十年「北海道集約酪農地域」の指定を受けて、酪農の将来が政策的に確約されたらことを契機に、畑作経営から酪農経営へと転換が図られ、生産基盤の整備や技術力の向上等に積極的に取り組み、酪農畜産生産地として発展してきたところである。

表2　紋別市農業の経営形態

	上渚滑	紋別	合計
①酪農専業	54.2	60.0	58.0
②酪農肉牛専業	16.7	0.7	6.3
③酪農畑作専業	11.1	14.8	13.5
④農農畑作専業	2.8	8.1	6.3
⑤肉牛専業	5.6	6.7	6.3
⑥畑作専業	8.3	5.2	6.3
無回答	1.4	4.4	3.4
合計	100.0	100.0	100.0

一方、農業協同組合の変遷を見ると紋別市と渚滑両農協が昭和五十七年に合併し、現在は紋別市農協と上渚滑農協が存在する。さらに現在、西紋六農協の広域合併に関する研究会が、年二回のペースにて実施されている。

◆紋別市農業の現状課題

紋別市は、前記の通りその地理的条件から紋別地区は五地区に分かれ、酪農専業農家が六〇％（表―2）を占め、上渚滑地区も、酪農専業農家は、五四・二％、酪農プラス肉牛農家が一六・七％を示している。当初、紋別市より当研究所に対し「農村環境づくりガイドポスト」作成の依頼があったが、全体像の把握と環境問題のみを取り上げても実施が難しいことから「農業活性化ビジョン策定」に取り組むこととし、平成八年八月より現地「ワーキング・グループ検討委員会」との共同研究にて進めることとなり、平成八年九月の機関調査・平成八年十二月JA上渚滑・JA紋別市の組合員を対象に農家意向アンケート調査を実施した。（調査対象二一五戸・回答者二〇七戸無回答八戸回収率一〇〇％）（表―3）

その中から、紋別市の酪農部門における緊急課題を捉えると次の

◀現地調査中間報告会

通りとなる。

①良質租飼料の収穫
②負債の償還
③繁殖技術の向上
④労働時間の短縮
⑤糞尿の利用・処理等が挙げられている。これは、道内他の酪農地区全般に見られる傾向であり、担い手問題と土地問題、「高齢化」によるの後継者育成問題、作業受委託問題とあわせて調査研究を進め改善提案していきたい。本年七月下旬に実施予定の農家調査（約四〇戸）を基に更なる検討を重ね、紋別市農業の将来像を提案したい。

表3　農家意向アンケート調査より
酪農部門に於ける緊急課題(3回答)

	紋別市			
	上渚滑	紋別	合計	
①労働時間の短縮	20.3	29.4	26.1	③
②作業環境の改善	15.3	17.6	16.8	
③粗飼料の不足	13.6	2.0	6.2	
④草地の改良	8.5	21.6	16.8	
⑤良質粗飼料の収穫	39.0	49.0	45.3	①
⑥飼料給与技術の向上	20.3	8.8	13.0	
⑦繁殖技術の向上	25.4	26.5	26.1	④
⑧搾乳技術の向上	6.8	7.8	7.5	
⑨育成技術の向上	11.9	7.8	9.3	
⑩放牧技術の向上	1.7	2.0	1.9	
⑪糞尿の利用・処理	32.2	14.7	21.1	⑤
⑫頭数規模の拡大	18.6	8.8	12.4	
⑬頭数規模の適正化	1.7	5.9	4.3	
⑭牛舎・施設の新増設	20.3	17.6	18.6	
⑮牛舎の分散	3.4	1.0	1.9	
⑯簿記・経営分析方法	3.4	1.0	1.9	
⑰負債の償還	35.6	33.3	34.2	②
⑱その他	1.7	2.9	2.5	
無回答	20.3	42.2	34.2	
合計	300.0	300.0	300.0	
集約戸数（戸）	59	102	161	

平成8年12月（社）北海道地域農業研究所実施アンケート調査より

◆「簿記会」と「食品加工研究グループ」の活動

紋別市では、女性の活動が目覚ましく農業経営の参画や、将来に夢を持ちそれに向かい活発に展開されている。「簿記会」は当初、昭和五十年代に若干の女性が普及員の指導を受けて個人的に簿記記帳始めたが、平成元年から本格的に活動を開始した。紋別地区では現在五グループ総勢四〇名の女性が、上渚滑地区では平成七年より十一名の女性が本格的に取り組み、月に一度の学習会を開催している。繁忙期でも出席率が高く、回を重ねる毎に記帳の習得から決算・税申告まで取り組む人も出てきている。数字面での経営把握と同時に経営管理や搾乳技術・飼養管理の習得にも役立ち、女性の経営参画などの効果を発揮している。「食品加工研究グループ」の活動も活発で、平成六年酪農家の奥さん十八名が集まり、三班に分かれ地場農畜産物を食材に使い食卓を飾ることを目的に結成された。三年間普及センターの指導を受けながら、さらには十勝・根釧地域の先進事例の研修を重ね、技術を蓄積して

表4　地域振興策の重要度評価

①農地の基盤整備	67.1%
②堆肥・土づくり	66.2%
③後継者育成	66.2%
④農地の流動化・調整	65.2%
⑤生活環境整備	62.8%

（同農家意向アンケート調査から）

◀「簿記会」の活動状況

いる。①アイスクリーム班　②牛肉・豚肉加工班　③乳製品を利用したケーキ・クッキー等の班があり、主なる活動は毎年九月に開催されるイベント（農協利用者感謝祭・農業まつり）の試供品の提供である。来年度、建設予定の紋別市食品加工施設（渚滑）の建設を待ち、具体化する予定。今春、全農家向けに「ファームクッキング」というレシピ集を発行、活動の輪を広げ地域興しの一翼を担っている。

▶上渚滑地区の共進会

一方、青年部の活動も目覚ましく、JA青年部の活動以外に紋別地区には「PMクラブ」上渚滑地区には「若人の会」がある。技術的な研修に加え、近隣の滝の上「4Hクラブ」との交流や地元漁業青年部等との異業種交流等輪の広がりを積極的に行っている。彼らの活動は、将来の紋別市農業の活性化における重要な役割を担っているだけに注目される。

▶スラリータワー

◆紋別市農業が目指す将来像

内外の厳しい環境に置かれている酪農情勢の中、紋別市農業は、将来とも「農業および農村環境をづくり」を積極的に果たそうとしている。JA紋別市では、今年五月から地域ブランド名による「オホーツク3.6牛乳」が、大手生協「コープこうべ」での販売が決定している。

五月三十日現地において、農家意向アンケート調査結果を中心とした、「中間報告会」を開催した。若手農業者からも積極的な意見が披瀝され、農業者をはじめ地元関係者の意識改革を積極的に進めようとしている。課題については、今後の調査・分析・検討を重ね、改善提案をしていくとともに「紋別市農業が目指す将来像」についても提案したい。

（レポーター　専任研究員　前田　信義）

▲JA紋別市女性部の活動（交通安全）

▲サイレージ収穫作業